

桜蔭俳話会 九月句会 (第三二八回)

平成二十五年九月二十二日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

4点 気がかりな原発汚染穴まどひ

秀一

甲羅ほす亀並びをり台風過

清子

バス路線絶えし街道秋あざみ

明美

十五夜や外人親子に席ゆづる

真三

3点①名月や雨戸にかける手を止めて

邦子

オリンピック決定歓喜の秋暑し

ツル子

①秋高し動く歩道を駆け抜ける

ヤエ子

高速をハーレー飛ばす敬老日

ヤエ子

もう怒る相手のをらず秋刀魚焼く

守

猫医院主のなでる手秋湿り

幸

雑魚を売る声の涼しき若夫婦

幸

赤蜻蛉群れし刈り草多きとこ

真三

池の面のさざなみ十月桜かな

清子

山里の都会に勝る今日の月

邦子

宵闇を独居の家へ持ち帰る

秀一

とめどなき地下水汚染走り蕎麦

守

2点②満月のジェット機去るを見守りぬ

秀一

東京オリンピックに颯雲

直子

①台風圏水の平野となりにつけり

明美

ダイアナの果てしとネル秋の闇

幸

①鈴虫やヒトいつよりの夜行性

守

豊饒な言葉の海や月上る

守

声美しき神学生や柘榴熟る

守

そちこちに芙蓉咲かせて町ゆかし

清子

自販機の「あたたかい」押す秋けはい

秀一

星空の今宵スターは望月の月

邦子

満月や台風一過も知らぬ顔

ツル子

かなかなの声の途切れて夕支度

ツル子

居待月ワイングラスの香り立つ

秀一

特養の納涼祭に笑顔売る

直子

秋蝶の肩に止まりぬ三回忌

友子

どつしりと芒並びし又会ひぬ

真三

1点①今日の月心ゆくまで眺めけり

清子

出発し同じ秋せきひそやかに

真三

①新蕎麦や参詣終へし老夫婦

邦子

秋空の先につづくやベビーカー

ツル子

名月や月餅たべて祝うかな

友子

空蟬を見つける声や寺の庭

幸

何事も不作なりしや秋湿り

直子

甲州路豊年と見ゆ稲の穂に

直子

奥院のしづまりかへる白桔梗

ヤエ子

天心よりひかり降り来る良夜かな

友子

今朝の庭つんつんつんと曼珠沙華

友子

(不在投句 古野明美、原田清子、平野邦子)

警報のやみて夜食となりにつけり

ツル子

「事務局よりお知らせ」

冬瓜のごろり置かれたたきかな

明美

① 十月句会は吟行会となります。

咲くを待つ人には遅し菊の花

ヤエ子

② 十一月の定例会

イブシロンきれいに揚がり衣被

邦子

③ 十月二十日(日)

星の数多くなりしや台風過

明美

④ 十月二十日(日)

夕焼けの一望の原羊染む

ヤエ子

⑤ 十一月の定例会

※ 特攻の兄弟の碑大西日

幸

・日時 十一月二十三日(土) 午後一時三十分

頂上のひかる尾花や下界澄む

友子

・場所 旭区民文化センター・サンハート

潮傷み激しきフェンス秋の蜂

明美

(相鉄線二俣川駅ライフ五階)

評価され東京の秋決りたる

真三

③ 十二月の定例会

秋暑し雑踏に立つ托鉢僧

清子

・日時 十二月二十三日(月)午後一時三十分

いやしの里かぶと造りに尾花揺れ

直子

・場所 旭区民文化センター・サンハート